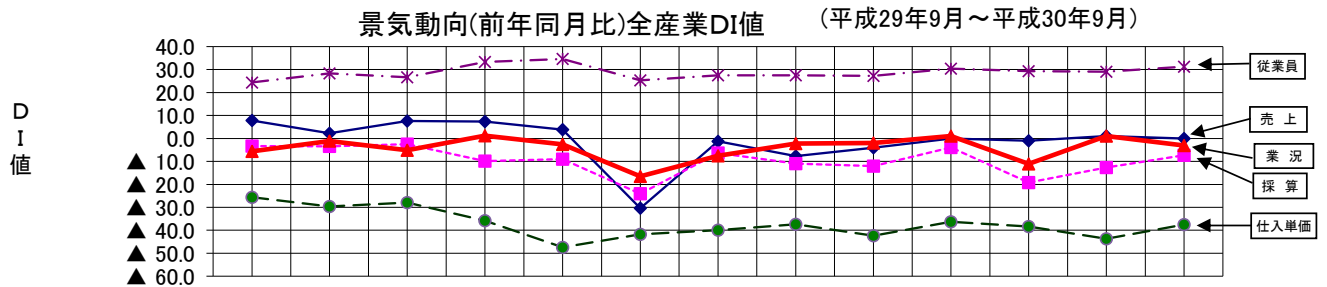


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 9月分

【9月の概要】 景況感は横ばいの動き、先行きは売上、採算の改善に慎重な見通し

8月に比べると、売上D Iは大きく変動していないが、採算D Iと仕入単価D Iはやや改善の動きを示した。一方、業況D Iはプラスからマイナスに転じている。従業員D Iのプラス幅は増加した。景況の回復基調は続いているが、一進一退であり、全体的な景況感は、ほとんど横ばいの動きとなっている。

先行きについては、8月に比べ、売上D I、業況D Iはプラス幅が減少している。採算D Iもプラスからマイナスに転じた。仕入単価D Iのマイナス幅は、ほとんど変動なし。従業員D Iのプラス幅はやや減少した。仕入コスト増が続く状況で、売上と採算面での改善には慎重な見通しとなっている。



	平成29年 9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	平成30年 9月
売上	7.8	2.3	7.6	7.4	3.9	▲ 30.4	▲ 1.3	▲ 7.7	▲ 4.0	0.0	▲ 1.0	1.0	0.0
採算	▲ 3.3	▲ 3.4	▲ 2.5	▲ 9.9	▲ 9.0	▲ 24.1	▲ 6.3	▲ 11.0	▲ 12.1	▲ 3.9	▲ 19.2	▲ 12.6	▲ 7.3
業況	▲ 5.6	▲ 1.1	▲ 5.1	1.2	▲ 2.6	▲ 16.5	▲ 7.5	▲ 2.2	▲ 2.0	1.0	▲ 11.1	1.0	▲ 3.1
仕入単価	▲ 25.6	▲ 29.6	▲ 27.9	▲ 35.8	▲ 47.4	▲ 41.8	▲ 40.0	▲ 37.4	▲ 42.4	▲ 36.3	▲ 38.4	▲ 43.7	▲ 37.5
従業員	24.4	28.4	26.6	33.3	34.6	25.3	27.5	27.5	27.3	30.4	29.3	29.1	31.3

【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

売上D Iはプラスから0.0となり、採算D Iは5.3ポイントマイナス幅が減少し、仕入単価D Iは6.2ポイントマイナス幅が減少した。業況D Iはプラスからマイナス3.1ポイントに転じた。従業員D Iは2.2ポイントプラス幅が増加した。

全産業平均D I - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
8月	18.5	1.9	▲ 34.0	37.9	8.7
9月	10.4	▲ 7.3	▲ 33.3	31.3	5.2

先行きは、売上D Iは8.1ポイントプラス幅が減少し、業況D Iは3.5ポイントプラス幅が減少した。仕入単価D Iは0.7ポイントマイナス幅が減少した。採算D Iはプラスからマイナス7.3ポイントに転じた。従業員D Iは6.6ポイントプラス幅が減少した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	建設・土木コンサルタント	売上を維持しているが、人手不足で従業員の負担感は増し、疲弊の傾向にある。働き方改革の対応で雇用環境の整備を進めているものの、後手に回っているという感じである。
	総合建設	建設市場は現状の景気は悪くないが、物件の小型化と採算性の低下があらわれてきており、工事物件の先行きが見通せない。
製造業	機械部品	中国を中心としたアジアの需要は安定しており、フル操業が継続している。
	食料品	依然、原材料が値上げ基調で高止まりしている。人件費が上昇している。
卸売業	木材	県内の住宅着工が低調なこともあり、建築資材の動きは悪い。秋の需要期に期待したいが多くの望めない。消費税増税前の駆け込み需要はあまり実感できない。
	靴履物	天候不順につき先行き厳しい見通しである。
小売業	家具・日用品	業界内の景況は、全般的に低調のまま、推移している。当社も厳しい状況が続いている。
サービス業	ソフトウェア	人手不足感あり。採用しようにも人がいない。同業への仕事の依頼も、同業者も同じ状況のためできない。
	飲食	テナントとして出店しているショッピングセンターの売上、客数の伸びは、いまひとつのようである。従って我々出店者の売上や客数もそれに右ならえとなりがちである。
	運輸	慢性的なドライバー不足と軽油単価の上昇などのマイナス要因はあるが、荷主企業に対する運賃改定によるプラス効果が出ている。